

勝浦の観光 その二



戦後間もない1950年ころ勝浦海水浴場で海水浴を楽しんでいる親子、当時の砂浜の広さがわかる。



1950年ころ勝浦海水浴場、オリエンタルの文字のあるテントで海水浴客の写真を撮影し商いにしていた。



昭和初期に発行されたと思われる勝浦パンフレットの一部分である。右の2枚の写真は勝浦市街と勝浦海岸の写真で、左の2枚が海水浴場の写真である。海水浴場には洗い場、運動場、公園があった。



昭和30年代の串浜海岸である。この頃は白く広い砂浜と澄んだ海があり、民宿が増え始めた頃である。



昭和30年頃の串浜海岸の磯から撮影された写真



昭和40年頃には多くの入場者があった猿ヶ城

明治末期から昭和30年代まで勝浦は県内一の海水浴場として大変賑わっていた。それは現在の湘南のようで、森永ストアというモダンな海の家もあった。夜には花火大会や踊りなどの催しがあり、海の家で映画も上映された。しかし、漁港整備のために海水浴場は埋められた。この後一時期、広い砂浜が残っていた串浜などで民宿ブームとなったが道路整備等のため砂浜が減少し現在に至った。(写真提供 小林伸江 和泉暁 編集：中村裕明)